

ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科

古 家 晴 美



筑波学院大学

TSUKUBA GAKUIN UNIVERSITY

目次

教育の責任	1
1. 何を担当しているのか.....	1
2. 担当科目	1
教育の理念	2
1. 身近な環境、異質な文化・価値観にも好奇心・理解を持てる学生の育成	2
2. 新たな知識を得た驚きとよろこびを感じ取れることを目標とした授業.....	2
3. 地元茨城を意識した教育	2
教育の方法	3
1. 講義：視聴覚教材・ワークシート取り入れた授業	3
2. 講義における理解とワークショップにおける意見交換.....	3
3. 茨城を体感できる授業	3
教育の成果 および 今後の目標.....	6
参考資料.....	6

教育の責任

1. 何を担当しているのか

本学で担当しているのは、食および生活のあり方を通して見た日本文化および地域文化の理解と、それをいかにして留学生や外国人にも伝えるか、また異文化との比較の中で相対化して、どのように理解できるかについて考察することである。

食を通して見た社会と文化の理解

日本人の生活文化

地域文化理解（今年度から、特に茨城県の文化を理解するための講座を開設した。）

2. 担当科目

現在（2020年度現在）の担当科目とその概略は以下のとおりである。

科目名	対象学年	受講人数*	授業形態	必修選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
日本人の生活文化	1-4	30	講義	選択	総合教養科目群 教養科目
現代社会と地域文化 1	2-4	40	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション)
現代社会と地域文化 2	2-4	40	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション)
地域デザインの基礎2	2-4	11	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション)
地域デザインと生活文化	2-4	31	講義	選択	専門基礎科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション)
グローバルコミュニケーション演習 B1(コミュニティと文化)	3-4	25	演習	選択	専門発展科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション)
グローバルコミュニケーション演習 B2(コミュニティと文化)	3-4	8	演習	選択	専門発展科目群 コース科目 (グローバルコミュニケーション)
文化の考え方	1-4	40	講・演	選択	総合教養科目群 教養科目
実践科目A-1	1	40	講・演	選択	進路支援科目群 実践科目
実践科目A-2	1	40	講・演	選択	進路支援科目群 実践科目
実践科目C	2	15	講・演	選択	進路支援科目群 実践科目
卒業研究	4	5	演習	必修	卒業研究

教育の理念

1. 身近な環境、異質な文化・価値観にも好奇心・理解を持てる学生の育成

社会全般に自分とは異なる環境の価値観や文化への理解や好奇心が停滞している傾向にあることを切実に感じている。本学で教職について20年を超えるが、学生の間でも自分の周囲の環境に対しては非常に敏感であるが、一部の者を除き、自分の生まれ育った地域の過去、異なった世代への理解、異文化への理解や対する知的好奇心が薄れつつある。積極的に周囲の文化や生活環境、食生活にも好奇心や理解を持てる学生を育成したいと希望している。

2. 新たな知識を得た驚きとよろこびを感じ取れることを目標とした授業

毎回の授業で、新たな知識を得ることの驚きとよろこびを感じ取れる授業を行うことが目標である。例えば、天皇制が天皇と米との関係によってどのように意味づけられているのか、天婦羅はどのような形で日本に入って来たのか、箸はどうして使われるようになったかなど身近な問題を解説しながら、自分自身の文化への理解を深めていく。

3. 地元茨城を意識した教育

2019年度から「茨城を知る」という副題で、基礎科目に茨城の自然・地形・地理・交通・産業・歴史・文化・景観などを多角的に紹介した講座を開設した。本学の場合、日本人学生の半数以上が、地元茨城の出身であると同時に、卒業後、茨城県内に就職を希望する学生が多い。どの分野に就職するとしても、地元と強い連携を持ってきた本学としては、学生に最低限、茨城についての基礎知識を身に付けてから社会に送り出したいと考えている。

教育の方法

1. 講義：視聴覚教材・ワークシート取り入れた授業

事前学習：予習としてテキストを講読してくることを課題とする。また授業内でそれに関する小テストを実施する。

出席確認：テキストに即したワークシートを配付し、小テストとして内容理解を確認する。

視聴覚教材：授業内では、視聴覚教材を多用し、学生の理解を促す。

事後学習：次回までに課されたトピックに関する課題として提出する。

2. 講義における理解とワークショップにおける意見交換

講義で基礎的な理解を得たのちに、各自がインタビュー・課題調査を行い、それをクラスでプレゼンテーションし、学生間での意見交換、教員からのコメントを付け加える。

3. 茨城を体感できる授業

最近の学生は、*virtual reality*（仮想現実）で満足し、それを現実として受け止めることが多いように感じている。実際に人や物に触れることによって生み出される多角的な現実世界について認識を深めることができるように、可能な限り実習を取り入れている。特に地元茨城を意識した内容のものを積極的に取り入れてきた。

● 1999年～2018年 たむら塾

築地の料亭「たむら」の3代目当主田村隆氏を10年に亘り、外部講師として年1回招聘し、茨城の特産物を使用した料理講習会を学生対象で開催した。



右端が田村隆氏、毎回、20名の学生が参加し、学生にも好評であった。

- 茨城県5地域（県北・県央・鹿行・県西・県南）のゼミ巡検

2018年度に3年生対象の発展科目で、県内全域の5地域を巡検し、各地域の代表的農産物の生産者にインタビュー調査を行った。ホームページサイトを作成し、それを学外にも公開した。



コンニャク生産者の蛭川克則さんを紹介するHP

蛭川さんと発展科目のメンバー

1名撮影担当

- 本学と地域連携協定を結んでいる結城郡八千代町において開催された「八千代町の未来を創るアイデアコンテスト」に八千代町が生産量全国1位を誇る白菜をご飯代わりに使用しサラダ感覚で食べられる「白菜のり巻き」を考案し、太巻き祭りずしの技法に詳しい川野泰子氏からご指導いただき、コンテストに出品し参加して3位に入賞した。



川野さんと一部メンバー



川野さんの指導のようす



9種類の白菜のり巻きのサンプル。白菜の塩漬けを塩抜き、水切りし、ご飯の代わりに使用する。サーモンや厚焼き玉子、魚肉ソーセージなどうま味のあるたんぱく質との組み合わせが、試食した20～60代にまで幅広く支持された。

- 2019年度から地元、霞ヶ浦歴史博物館の学芸員である千葉隆司氏の協力を得て、茨城の地形・地質・自然・地理・農業・漁業・工業・交通・流通・歴史・景観など多角的に講義を行い、学生にも地元企業へのインタビュー調査とそのプレゼンテーションを課している。

また、その一環として、筑波山から霞ヶ浦へバスで移動しながら、地質や地形を実際に見学し、それが現在の産業（例えばブランド米の栽培、果樹園経営やレンコン栽培など）とどのように関わっているかについての理解を深めた。



学芸員の千葉氏から縄文時代の貝塚と、その形状と土壌が現在どのように変化しているかについて説明を受けている学生たち。

教育の成果 および 今後の目標

- 食に関する基礎的な知識や文章をまとめるスキルを身に着けることができた。
- 日本語力が不十分な留学生に対する丁寧な対応が学生から高く評価されている。レベル向上を目指しつつ、学習放棄をする学生が少しでも減るように努力していきたい。
- 視聴覚教材・話し方・説明・アドバイス・評価方法・質疑応答・学生の参加・私語の対処・授業の改善・分野への興味・為になる知識取得など多項目にわたり、学生の評価が高かった。
- 2019年2月「八千代町の未来を創るアイデアコンテスト」で3位に入賞。

参考資料

Google Classroom (URL :)

授業で使用した Powerpoint (部外秘)